



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年7月28日

上場取引所 東大

上場会社名 株式会社ダスキン

コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 鶴見 明久

TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	42,909	△2.4	2,458	△13.0	3,125	△6.3	1,692	96.1
23年3月期第1四半期	43,950	△3.5	2,824	△17.0	3,335	△13.6	863	△46.7

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 1,903百万円 (98.4%) 23年3月期第1四半期 959百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	26.11	—
23年3月期第1四半期	13.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	190,686	146,401	76.3
23年3月期	198,876	148,565	74.3

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 145,509百万円 23年3月期 147,740百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	0.00	—	40.00	40.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	88,900	1.3	2,900	△43.7	3,900	△35.4	2,200	△16.2	33.69
通期	179,200	1.1	8,900	△18.6	10,800	△14.4	6,200	18.1	94.94

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	67,394,823 株	23年3月期	67,394,823 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	2,998,904 株	23年3月期	2,092,494 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	64,837,742 株	23年3月期1Q	66,236,662 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日～平成23年6月30日)の我が国経済は、長期にわたる円高、原油価格や原材料価格の高止まりに加え、東日本大震災の影響等で厳しい状況が続きました。また、電力供給不足の懸念や海外経済の動向等、先行きの見極めも困難な状況となりました。

東日本大震災に対しましては、避難所へマットやモップ等の衛生関連商品やミスタードーナツの商品をお届けする等の支援活動を行いながら、フランチャイズ加盟店を含む当社グループの被災した営業所やショップの復旧に全力をあげております。しかしながら、第1四半期末時点では、クリーングループ営業拠点4拠点、洗浄・物流を担う総合工場1工場、ミスタードーナツショップ5店舗(何れもフランチャイズ加盟店の拠点も含む)、の営業活動が再開できていない状況です。

このような環境の中、中期経営方針の2年目に当たる当平成24年3月期、当社は、お客様の要望に今まで以上に迅速に対応できる体制作りと、お客様及び市場のニーズを的確に捉えた商品開発、お客様にとってより便利な仕組み作り着手しております。

当第1四半期の業績につきましては、連結売上高は429億9百万円(前年同期比2.4%減)、連結営業利益は24億58百万円(前年同期比13.0%減)、連結経常利益は31億25百万円(前年同期比6.3%減)となりました。連結四半期純利益は、投資有価証券評価損や資産除去債務会計基準適用に伴う特別損失を計上した前年同期と比べますと96.1%増加し、16億92百万円となりました。

a. セグメント毎の状況

(a) クリーングループ

クリーングループにおきましては、お客様の利便性向上の視点から、新たな商品やお客様との接点作りに取り組みました。

一般ご家庭向けの清掃関連用具のレンタル及び清掃美化関連の役務サービスを手掛けるホームサービスにおきましては、前期から、新しいお掃除文化の浸透を目指して、フロアモップとダストクリーナーを使って、手間をかけずに気軽に行える“新おそうじスタイル”を中心に据えた営業活動に注力しております。加えて当第1四半期には、コンパクトでスタイリッシュなデザインで部屋の中に置いたままでも違和感がなく、いつでも気づいたときにすぐに使えるフロアモップ「LaLa」を4月より西日本で先行発売しました。また、役務サービスでは、お客様から見て明確で、且つ、安心してご利用いただけるよう全国一律のサービス料金に変更すると共に、4月からは、母の日・敬老の日、お中元・お歳暮といった社会催事や誕生日等のプレゼント需要やイベント等の賞品にもご利用いただける「ダスキン プロのおそうじギフト」(おそうじギフトカード)の販売も開始し、好評を得ております。好調な役務サービスの中でもエアコンクリーニングサービスは、電力供給不足懸念に伴う節電意識の高まりを背景に、順調に受注件数が増加しました。これらの結果、ホームサービス全体の売上高は前年同期を上回りました。

一方、事業所向けのサービスを手掛けるビジネスサービスは、前期から引続き空間清浄機「デオ」を活用した空間衛生サポート活動に注力しつつ、「ダスキンメンテナンス会」会員である飲食店向けの新サービス「拭き取り検査サービス」を使った厨房衛生サポート提案や新商品「カーペットブラシ」を活用したフロア衛生サポート提案等、新たな商品・サービスを使った提案型営業に努めました。また、東日本大震災に伴うオフィスや店舗の遮熱やガラスの飛散防止ニーズに対しては、「ガラス面フィルム施工サービス」等の新たなメニューも用意しました。しかしながら、経費削減意識の更なる高まりにより、ビジネスサービス全体の売上高は前年同期を下回りました。

その他の事業は、ドリンクサービス事業は好調に推移しましたが、ユニフォームサービス事業は大口顧客の解約により、また、レントオール事業は東日本大震災によるイベントの自粛、節電等により、前年同期の売上高を下回りました。

以上の結果、クリーングループ全体の売上高は、284億69百万円(前年同期比0.7%減)、営業利益は35億27百万円(前年同期比0.5%減)となりました。

(b) フードグループ

フードグループにおきましては、お客様層の拡大とお客様との接点拡充に注力しました。

事業開始から41年目に入ったミスタードーナツ事業は、お客様層の拡大を目指して、油で揚げずオープンでじっくり焼いたドーナツ「焼きド」を5月に全国発売しました。集中的に広告展開し売上増加に寄与したものの、東日本大震災による消費マインドの冷え込み等による落ち込みをカバーするには至らず、全体の売上高は前年同期を下回りました。また、お客様との接点拡充を図るべく出店にも注力し、6月1日にはキッチンレスのテイクアウト専門店(大阪・北大阪急行電鉄桃山台駅改札前)をオープンしました。これを皮切りに、利用者が多い駅ビルや駅構内等新たなお客様の獲得につながる出店を進めてまいります。

その他の事業は、不採算店を閉鎖し稼働店舗数が減少したカフェデュモンド事業、海鮮丼チェーンを運営する株式会社どんの売上高は前年同期を下回りましたが、新規出店したかつアンドかつ事業の売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、フードグループ全体の売上高は、118億7百万円（前年同期比5.7%減）、営業利益は3億91百万円（前年同期比59.6%減）となりました。

(c) その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、4月に大口契約を獲得したことにより前年同期を上回りました。

海外のダストコントロール事業及びミスタードーナツ事業につきましては、既存展開地域は順調に推移する中、展開地域の拡大を目指した取り組みにも注力しました。

以上の結果、その他の売上高は26億32百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は3億10百万円（前年同期比188.3%増）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,906億86百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して81億89百万円減少しております。その要因は、短期資金運用等の有価証券が40億11百万円、現預金が37億6百万円減少したこと等であります。

負債残高は442億85百万円となり、前期末と比較して60億25百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が22億18百万円、賞与引当金が19億10百万円、災害損失引当金が6億21百万円、買掛金が5億72百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,464億1百万円となり、前期末と比較して21億63百万円減少しております。その要因は、四半期純利益16億92百万円と剰余金の配当26億12百万円との差引により利益剰余金が9億19百万円、自己株式の取得により14億45百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期（平成23年4月1日～平成24年3月31日）通期及び第2四半期累計期間の業績予想につきましては、平成23年5月13日に公表した従来の予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,733	15,026
受取手形及び売掛金	12,353	11,795
リース投資資産	1,864	1,901
有価証券	13,017	9,006
商品及び製品	6,297	7,531
仕掛品	155	202
原材料及び貯蔵品	1,956	2,011
繰延税金資産	2,982	2,172
その他	3,065	3,136
貸倒引当金	△63	△44
流動資産合計	60,364	52,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,099	41,040
減価償却累計額	△22,376	△22,554
建物及び構築物(純額)	18,722	18,485
機械装置及び運搬具	21,680	21,587
減価償却累計額	△15,130	△15,231
機械装置及び運搬具(純額)	6,550	6,356
土地	23,818	23,818
建設仮勘定	142	271
その他	12,207	12,231
減価償却累計額	△8,051	△8,265
その他(純額)	4,155	3,965
有形固定資産合計	53,389	52,897
無形固定資産		
のれん	294	304
その他	6,485	6,268
無形固定資産合計	6,779	6,573
投資その他の資産		
投資有価証券	59,955	60,176
長期貸付金	115	241
繰延税金資産	8,417	8,265
差入保証金	8,735	8,617
その他	1,334	1,417
貸倒引当金	△214	△243
投資その他の資産合計	78,343	78,476
固定資産合計	138,512	137,947
資産合計	198,876	190,686

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,322	6,749
1年内返済予定の長期借入金	116	109
未払法人税等	2,651	433
賞与引当金	3,542	1,632
ポイント引当金	506	460
災害損失引当金	671	50
資産除去債務	254	245
未払金	6,962	6,662
レンタル品預り保証金	10,792	10,470
その他	4,615	4,477
流動負債合計	37,436	31,290
固定負債		
長期借入金	245	222
退職給付引当金	11,112	11,397
債務保証損失引当金	117	90
資産除去債務	398	389
長期預り保証金	833	822
長期未払金	140	63
負ののれん	17	—
その他	8	7
固定負債合計	12,874	12,994
負債合計	50,311	44,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	13,076	13,076
利益剰余金	129,619	128,700
自己株式	△3,301	△4,746
株主資本合計	150,747	148,383
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,528	△2,420
繰延ヘッジ損益	△1	△10
為替換算調整勘定	△477	△442
その他の包括利益累計額合計	△3,007	△2,873
少数株主持分	825	891
純資産合計	148,565	146,401
負債純資産合計	198,876	190,686

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	43,950	42,909
売上原価	23,724	23,149
売上総利益	20,225	19,760
販売費及び一般管理費	17,400	17,301
営業利益	2,824	2,458
営業外収益		
受取利息	210	224
受取配当金	122	125
設備賃貸料	35	37
受取手数料	67	54
負ののれん償却額	1	17
持分法による投資利益	22	29
営業権譲渡益	5	72
雑収入	121	145
営業外収益合計	586	706
営業外費用		
支払利息	18	1
為替差損	—	9
賃貸借契約解約損	23	—
雑損失	34	27
営業外費用合計	76	39
経常利益	3,335	3,125
特別利益		
固定資産売却益	6	—
貸倒引当金戻入額	13	—
債務保証損失引当金戻入額	12	—
その他	18	0
特別利益合計	50	0
特別損失		
固定資産売却損	13	1
固定資産廃棄損	52	26
投資有価証券評価損	768	0
災害による損失	—	115
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	491	—
その他	66	15
特別損失合計	1,393	157
税金等調整前四半期純利益	1,992	2,969
法人税等	1,121	1,214
少数株主損益調整前四半期純利益	870	1,754
少数株主利益	7	62
四半期純利益	863	1,692

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	870	1,754
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47	108
繰延ヘッジ損益	—	△8
為替換算調整勘定	24	36
持分法適用会社に対する持分相当額	16	12
その他の包括利益合計	88	148
四半期包括利益	959	1,903
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	941	1,826
少数株主に係る四半期包括利益	17	76

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	28,683	12,527	2,739	43,950	—	43,950
セグメント間の内部売上高 又は振替高	215	16	652	884	(884)	—
計	28,899	12,543	3,391	44,834	(884)	43,950
セグメント利益	3,544	968	107	4,620	(1,795)	2,824

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額1,795百万円には、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配布していない全社費用1,791百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。
この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べて当第1四半期連結会計期間の「クリーングループ」のセグメント利益は3百万円減少し、「フードグループ」のセグメント利益は4百万円減少しております。
5. 当社及び一部の連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より加盟店に対するシステム、機械設備の賃貸に係る収益及び費用を「売上高」及び「売上原価」「販売費及び一般管理費」に含めて計上する方法に変更いたしました。
この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べて当第1四半期連結会計期間の「クリーングループ」の売上高及びセグメント利益はそれぞれ210百万円、118百万円増加し、「フードグループ」の売上高及びセグメント利益はそれぞれ303百万円、232百万円増加し、「その他」のセグメント利益は70百万円減少しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	35	0	0	—	36
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	358	12	15	—	386

(注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)ののれん残高187百万円(クリーングループ)と当社及び連結子会社が過去に複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高133百万円(クリーングループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	28,469	11,807	2,632	42,909	—	42,909
セグメント間の内部売上高 又は振替高	217	1	601	820	(820)	—
計	28,686	11,809	3,233	43,729	(820)	42,909
セグメント利益	3,527	391	310	4,228	(1,770)	2,458

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額1,770百万円には、セグメント間取引消去14百万円、各報告セグメントに配布していない全社費用1,756百万円が含まれております。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんのコ額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	31	0	0	—	33
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	282	10	12	—	304

(注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)ののれん残高125百万円(クリーングループ)と当社及び連結子会社が過去に複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高111百万円(クリーングループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。